

企業を訪ねて 20

## 株式会社 南雲製作所

## 「ものづくりの明日を社員とともに変革する」

令和6年2月6日（火）、上越市の株式会社南雲製作所代表取締役社長 米柁 弘氏をお訪ねし、社員と一緒に、ものづくりの明日を変える取組みを日々重ねる体制について伺いました。

聞き手：富永禎秀

（地域産学交流センター長・工学部建築都市学系教授）

◆日頃は本学の教育研究に対しご支援を賜り、心からお礼申し上げます。また、本学出身の社員の方から大学法人役員をお引き受けいただくなど多方面からご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。

初めに、貴社の理念やものづくりへの想いについてお聞かせいただければと思います。

◇私たちの会社は、「品質」に非常にこだわっています。私も会社にお世話になって37年になりますが、創業者が非常に品質にこだわる方でした。今、自動車業界で色々な問題が起きていますが、どんな「きれいごと」を言ってもダメなのだと思います。決められた事だけをやればいいわけではないのですが、やはり「決められたことをきちんとやる」ことが根幹だと思います。それが、今につながる社風になっています。私達に、何か特別な取り柄があるわけではないですが、それが安心につながり、お客様から「南雲製作所に任せていれば安心だね」と言ってもらえる「信頼」を大切にしたいと思います。また、製造業として「生産性」の観点から設備投資を重視しています。古い機械で生産すれば、利益は上がりますが、勘・コツに頼ってミクロンオーダー業務をする時代ではないと思います。最新の機械を導入し、色々な経験をした多能工の社員が生産性を上げ易くする体制にしました。少し前には日本が技術指導していた中国や韓国等の企業が、今は当然のように日本の中小企業より積極的に設備投資をしています。

## ◆人材育成の取組について

◇まずは良い人材を採用することに力を入れています。言葉を選ばずに申し上げれば、曲がった木をまっすぐにしてから伸ばすより、まっすぐな木を伸ばす方が会社にとっていいですから。私たちは「人が財産」という考えのもと、社員一人ひとりの成長を大切にしています。新入社員からベテラン社員まで、それぞれが自らの可能性を最大限に引き出せるよう、機会を提供しています。例えば、「こんな仕事を誰が取ってきたんだよ」というくらい難しい案件が時々あります。そのような仕事は、1年かかっても、まだお金にならない場合もありますが、困難で他社ではできないことに取組むことに意義があります。効率は良くないですが、キャリアを積むには失敗して痛い目に遭うことが、最も力が付くと確信しています。これに共感してくれる



人、そんなことは当たり前とってくれる人で構成されている会社だと思っています。

それにかかる経費は授業料ですね。互いに学び合い、社員が自信を持って挑戦し、失敗を恐れずに新しいことに取り組む文化を育み続けたいと思っています。

## ◆情報発信の取組について

◇以前、外部の方に「自社のホームページ（HP）が存在していないことは、この世の中に会社が存在していないのと同じだ」ということを言われました。今では、情報発信力は企業競争の鍵となると考えています。そこで、マーケティング会社を活用しながら、新人も含めた女性社員を中心として情報発信チームを構成し、訴求力のある動画やSNSを通じ、こんな会社があるということを知ってもらいインサイドセールスとして充実し、その情報をフィールドセールスに橋渡しする体制を構築しています。

## ◆若者に求めることについて

◇当社は、精密金型設計製作が主な業務で、BtoB業態です。私は40年前、誰もが知っている会社に勤めていました。でも何が幸せだったかは、わからない。私自身は、コテコテの文系ですが、大きな会社から転職して、小さな会社で小さいなりに、色々なことをやらせてもらえて成長できたことを体感しています。縁があった会社で、論理的思考を身に付け、何事も前向きに積極的に取組み、目の前の仕事をとにかく一所懸命やっていたら、何とでもなると思います。

◆本日は、大変貴重なお話を伺うことができ、誠にありがとうございました。